

# 政治・経済

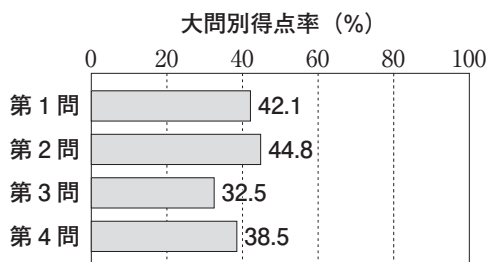
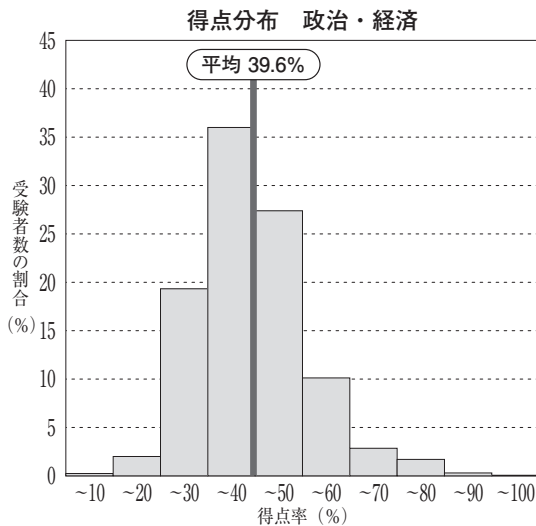
教科書の全分野を網羅し、全体系を把握しておこう。

## I. 全体講評

今回の2017年度「第2回4月センター試験本番レベル模試 政治・経済」は、平均点が39.6点であった。

「政治・経済」は、歴史事項、特に戦後史の設問が非常に多い。今回の試験でも、約半分は現代史または現在に直結する事項である。大きな節目の事件について因果関係や時系列を整理し、縦横のつながりと体系が見えるまで大きな流れとして把握しよう。

今回は、大問の間で目立った得点率の差は見られなかった。ただし、80%以上の正答率の問題が1問ある一方、10%以下の正答率の問題が2問ある。盲点となっている箇所は丁寧に復習したい。



## II. 大問別分析

### 第1問 戦後の日本経済

戦後経済復興から経済大国になった後、現在に至る諸問題を理解しよう。

第1問の得点率は42.1%と、平均的な結果であった。戦後の日本経済の様々な民主化政策、高度経済成長と、現在に至るまでの経済史問題である。

低い正答率であったのは、問10 [10]。正答率は8.7%で、全問中ワースト2であった。やや高度な時事知識を要求する問題であったが、50%以上の受験者が選択した①は、アベノミクスの「(旧) 三本の矢」である。出題の要求を正確に読み取らなくてはならない。

次に不振だったのは問9 [9]であり、正答率は24.2%であった。市場原理とは価格機構が正常に機能する自由競争状態で成り立つ。A、Bとも既得権を守る競争制限政策であり、市場原理とは逆であることを理解しよう。

### 第2問 地球環境問題

地球環境に関する会議名と内容の流れを整理し、正確につかもう。

第2問の得点率は44.8%と、最も高かった。しかし、問8 [18]の正答率は7.9%で、全問中ワースト1であった。アがAの地球サミットの内容であることは基本事項だが、①と②の選択率を合計しても20%に満たない。アをCとした④と⑥の選択率が合わせて70%を超えているが、「リオ」という言葉に引っ張られた結果であろう。

問3 [13]の正答率は21.9%で、完全に選択が均等分散した。温暖化防止以外の地球環境に関する条約も含めて整理しておこう。問7 [17]の正答率は30.4%で、④の選択率の方が高い。アとイは正しく判断できたが、ウで間違えた受験者が多いことが分かる。環境税の導入は時事的内容になるが、確認しておこう。

**第3問 国会、内閣**

日本国憲法で規定されている三権の基本を正確に理解しておこう。

第3問の得点率は32.5%。全4大問中最も低かった。問1 [19]と問3 [21]以外は、すべて40%に満たない正答率となっている。憲法に規定されている国会と内閣の制度と機能を再確認し、正確な知識を身につけよう。

問4 [22]の正答率は15.2%。⑦の選択率が40%を超えており、ウで間違えた受験者が多いことが分かる。内閣不信任時の総辞職・解散の決定を、10日以内を30日と誤解したようである。このような基礎的で重要な日数は正確に憶えよう。問6 [24]の正答率は14.4%で、選択が完全に分散した。②の新省庁設置は事実だが、コスト削減には逆行する。③のオンブズマン、④の条例は基礎知識である。

**第4問 国際法**

国際法と国際司法機関について、国内法との比較で体系的に整理しよう。

第4問の得点率は、38.5%であった。問3 [29]の正答率は19.9%で、①の選択率が49.3%と、大きく上回っている。国際慣習法には法的規範性があり、判例でも実際の判断の根拠となっている。問4 [30]の正答率は21.3%。Cがアの北朝鮮であることは約半数の受験者が判別できていたが、NPTの核保有国が5大国と一致していることは基礎知識であるので、もっと高くしてしかるべきである。基礎知識であっても、単純な問われ方ではなく、論理的思考力を試す聞き方になる場合があるので、アウトプットの訓練をしておこう。取れる問題を落としていたのが問1 [27]。正答率は41.9%だが、②の選択率が44.8%と逆転している。国家の三要素の規定で、「排他的経済水域まで領海」として選択していたが、まったくの基礎知識の欠如である。本番では絶対に得点しなければならない。このさい、国家の主権、領域について正確な理解をしておこう。

**Ⅲ. 学習アドバイス****◆教科書を中心に全体の体系をつかむ。**

「政治・経済」は、現実の社会現象を理解する科目で、社会に対する問題意識を持つことが大切になる。未知の語句・項目に出くわしたら、教科書や参

考書、用語集などで意識的に関連項目まで拡張させるとともに、体系的な学習にも心掛け、理解することに努めよう。

**◆戦後の政治・経済の流れを把握しよう。**

「政治・経済」は歴史事項が多く出題されるので、関連事項の時系列・時代的流れと因果関係を理解することが重要である。各時代背景をハッキリさせておくと、大きな判断の力となるだろう。

**◆次回の模試に向けて。**

まず、模試・過去問に早くから目を通し、焦点を定めること。手薄な個所、弱点が明確になる。さらに理論的な難問や計算問題を夏には征服し、他の受験生との差をつける実力養成の準備をしよう。焦点が定まり、自己の力量が分かれば、方策も立つというものである。